

## 職員会議資料

### 令和7年度互見授業について（まとめ）

#### 1 経緯

学習指導要領の実施から4年目となった。「主体的・対話的で深い学び」が重視され、その後「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が打ち出された。今回は、「協働的な学び」に絞った研修会を開催した。

#### 2 研修会実施

9月11日（木）沖縄県立芸術大学 城間准教授をお招きして、「協働的な学びの推進について」という演題で講演していただいた。

#### 3 互見授業実施

令和7年10月14日（火）～12月3日（水）まで校内で「協働的な学び」の互見授業を実施。授業に際して以下のことを目標に取り組んだ。

- 生徒がその時間でどのような資質・能力を身に付けるか意識する
- ペアやグループで協働して考えたり発表したりする時間を入れた。

#### 4 互見授業終了後アンケート結果

##### I 目標について、当てはまる欄に○をつけてください。

	良くできた	まあまあできた	あまりできなかった
生徒がその時間でどのような資質・能力を身に付けるか意識した。	40.4%	59.5%	0%
ペアやグループで協働して考えたり発表したりする時間を入れた。	35.7%	57.1%	7.1%

##### II I C T活用について、当てはまる欄に○をつけて使用例を参考に書いてください。

	使った (アプリ名)	記述　例) 電子黒板で資料を提示した、タブレットで検索させた、ロイロノートで資料を提出した等
電子黒板の使用	54.8%	授業プリントの提示、各班の発表、授業の流れの説明
タブレットの使用	47.6%	タブレットの辞書で単語を検索、調べ学習、動画視聴、スライドでの共同作業、イラストや画像検索
ロイロノートの使用	45.2%	資料の提示、テストカード、意見の提出、課題の提出、レポートの提出、シンキングツールの活用、グループやクラス全体への資料共有
その他アプリの使用	7.1%	音声の再生、ChatGPT、振り返り、記録入力

### III 今回の授業でうまくいったところ、改善が必要なところがありましたら書いてください（抜粋）。

- ・生成AIを初めて授業で利用してみた。生徒たちは興味を持って取り組むことができたが、適切な質問の仕方などの指導が足りなかった。今後利用する際は、どのように質問したらより適切な回答が得られるかを意識した指導をしたい。
- ・40人と人数も多いので、全員の協働作業に目が行き届かないところもあったが、グループによっては、先生の代わりになって、教えあったりする姿も見られた点は良かった。
- ・時間配分やグループ編成がうまく行かずグループ内での理解に差が出てしまったので、今後、改善していきたい。
- ・生徒に発表、批評をさせることで、生徒を主役にして進められたこと。
- ・発表をロイロノートで行うことにより時間が短縮した。
- ・互いの間違いの指摘は各グループでできていたが、練習方法の提案から実施に至る過程はより細かな段階に分けて進めていきたい。
- ・生徒への説明と問題を解かせる時間配分をもっと工夫すればよかったです。
- ・生徒に活動の定義づけをしっかりと行うことが大切だと改めって感じた。
- ・英文の内容をペアで振り返る活動を入れるところから、その内容を社会問題としてとらえ、ペアで解決策を考えるところまで行くことができた。
- ・班で画面共有して作業をすることにより、全員で話し合って協力して発表資料を作成することができたと思います。また、発表するときも、iPadを各人持ちながら話をすることができました。

### IV 今後授業で取り組みたいことがありますたら書いてください（抜粋）。

- ・協働学習にテストカードをより効果的に利用できるよう工夫していきたい。
- ・ロイロノートを活用した相互評価
- ・板書をノートに写すだけでなく、その授業で学んだことを自分でまとめさせることをやってみたいと考えている。
- ・動画の撮影によって動作やフォームの確認など視覚的な情報からイメージをつかませる流れを各单元において考えてみたい。
- ・A Iを活用した英会話トレーニング
- ・ロイロノートのシンキングツールを使って考えをまとめる作業に取り組みたいです。
- ・オーラル・イントロダクションやロール・プレイを活用した言語活動。

## 5 総括

授業の目標はおおむね達成できたようでした。協働的に活動することで、生徒が生き生きと取り組んでいる授業が多数見られました。日々の授業が大切だと改めて感じました。生徒は、他者とコミュニケーションをとりながら協働して問題解決をしていかなければなりません。生徒が主体的に他者と関わり社会に参加できるように、教師は授業をデザインすることが大切です。また、学習者が中心となり、教師は伴走していく授業をデザインしてください。P D C AサイクルのP D Cまでは完了しました。改善すべき内容を今後のA（アクション）に繋げてください。